

大型ドローン 市民くぎ付け

恵那の道の駅で見学会

ドローンスクールを運営する恵那市上矢作町のROBOZ(ロボッツ)は、同町の道の駅上矢作ラフォーレ福寿の里で大型産業用ドローンの見学会を開き、市民らに紹介した。

ROBOZは恵那市と地域商社ジバスクラム恵那(同市大井町)とまちづく



りや観光、防災で連携協定を締結している。今回はドローンの普及を目指し、見学会を開いた。

見学会でROBOZの

産業用ドローンにくぎ付けになった見学者＝恵那市上矢作町、道の駅上矢作ラフォーレ福寿の里

タッフが操作し、その様子を見学者がモニターを通じて見入り、くぎ付けになった。ドローンに搭載されたカメラは、赤外線サーモ、200倍ズーム機能で高さ100㍎、距離200㍎でも人の表情までくっきりと分かる。また自動操縦機能で位置を把握し、自動的に元の位置に戻り、見学者はこうした多機能ぶりも実感した。

ROBOZの石田宏樹社長は「道の駅で5千円から販売している。趣味や仕事でぜひ活用してほしい」と話した。見学した土岐市の林和男さん(70)は「まずは趣味で景色を空撮したい。仕事でも使えそう」と関心を寄せた。

(服部潤)